

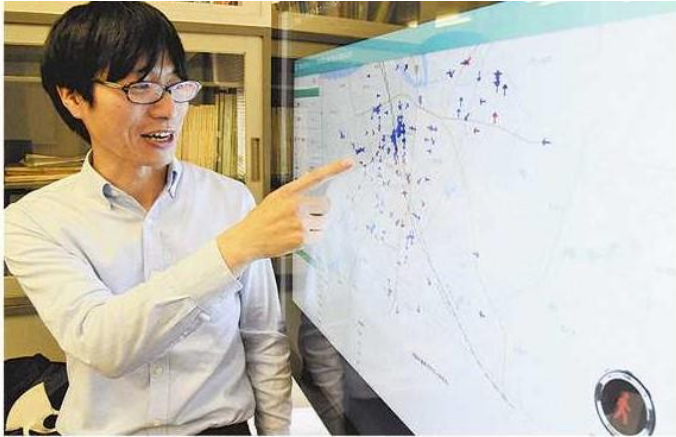
年 組 名前

2021年9月12日付愛知県版

ビッグデータを解析 道路の危険箇所改良

1 走る車から得られる膨大な情報「ビッグデータ」を解析し、道路の危険箇所改良の参考にしている豊橋市発の取り組みが、広がりを見せている。今年から春日井市でも本格的にデータ収集が始まった。歩行者と車が衝突しそうなところになった回数が多い場所をあぶり出し、重大な事故が起きる前に手を打つことを目指す。

(酒井博章)



衝突防止補助装置で警報が鳴った危険箇所を説明する松尾准教授。豊橋市天伯町で

- 2 取り組んでいるのは、衝突防止補助装置「モービルアイ」を販売するIT企業「ジャパン・トゥエンティワン」（豊橋市）と、ビッグデータを利用した道路上の危険分析の知見を持つ豊橋技術科学大（同市）。豊橋市は、人身事故発生数が名古屋市に次いで多いことから、市が働き掛けて二〇一八年から産学官で連携を進めている。
- 3 同大などによると、死亡事故につながりやすい歩行者や自転車の人身事故の発生場所は把握できるが、現場を含めて周辺のどの場所にもどのような安全対策をするべきかという絞り込みが難しかった。
- 4 課題解決の糸口として目を

豊橋発の取り組み 春日井にも広がり

- 5 豊橋市では既に交差点の改良工事などに反映されている。百台の車両に取り付けた装置のデータを基に、小池神社（小池町）近くの交差点の押しボタン式の歩行者用信号機と横断歩道を、見通しの良い場所に移設した。その結果、設置前の約二年で集めた歩行者衝突警報が、設置後の約一年は一回に激減した。
- 6 この成果を踏まえ、今年から春日井市でも公用車三十台を活用したデータ収集が始まっている。
- 7 松尾准教授は、豊橋発のこの取り組みは通学路の危険箇所をなくすことにもつながるとみており、「世界的にも珍しく、日本の文化ともいえる児童の集団登下校の安全確保のため、全国に広がっていきたい」と話している。

問1: 「歩行者と車が衝突しそうなところになった回数が多い場所をあぶり出し」について具体的に書かれているのは、第何段落と第何段落でしょうか。 第()段落と第()段落

問2: 「重大な事故が起きる前に手を打つ」について具体的に書かれているのは、第何段落でしょうか。 第()段落